

手紙

観賞日 2021年8月9日

【概要】

制作 2006年 上映時間 121分

原作 東野圭吾 『手紙』

監督 ショウノ 生野 慈朗

脚本 安倍照雄、清水友佳子

音楽 佐藤直紀

撮影 藤石修

出演 山田孝之（武島直貴^{ナオキ}）、玉山鉄二（武島剛志^{ツヨシ}）

沢尻エリカ（白石由美子）、吹石一恵（中条朝美）、尾上寛之（寺尾祐輔）

風間杜夫（中条）、杉浦直樹（平野会長）



【あらすじ】

幼くして両親を亡くした武島剛志、直貴兄弟。兄はできの良い弟を進学させようと盗みを働き誤って殺人を犯してしまう。終身刑で刑務所に入った兄の唯一の楽しみは弟とやり取りする手紙であった。大学進学をあきらめた弟はお笑い芸人を目指す。殺人犯の弟ということがばれてアルバイトの職を失う。その後も、世間の風は加害者の親族に冷たく、兄の存在に苦しめられる弟。塀の中で相変わらず弟からの手紙を楽しみにする兄と、塀の外で兄を疎ましく思うようになる弟。いつしか手紙のやり取りも途絶えてしまうが……。弟を思って犯した犯罪が弟を苦しめ、お笑いコンビ、テラタケもコンビ解消。二人っきりの兄弟関係が壊れていくなかで、最後に踏みとどまり再生に向かって歩み始めるラストシーン。重い過去の十字架から解放され、再生に向けて歩む兄弟にエール。

【解説】

■ポイント

●ベストセラー作家東野圭吾の原作を映画化

- 原作は東野圭吾の直木賞候補作。（東野の直木賞受賞作は「容疑者Xの献身」）
- 犯罪加害者の家族の視点から捉えた小説（＝加害者の家族も被害者となる）
- 東野作品の映画化（主要なもの）

「容疑者Xの献身」（2008年）、「白夜行」（2011年）

「ナミヤ雑貨店の奇跡」（2017年）



■見どころ

●泣かせるラストシーン

弟役山田孝之の兄をネタにした漫才シーン、それを聞いている兄役の玉山鉄二の涙、バックに流れる小田和正の歌（「言葉にできない」）の三つが相俟って観客の涙を誘う感動のシーンとなっている。

●暗く重いテーマを主演三人が好演

兄弟役を演じた山田孝之と玉山鉄二は演技力に定評のある俳優。

沢尻エリカも主人公を励ます健気な妻を好演。

●弟の再生を促したものは？